
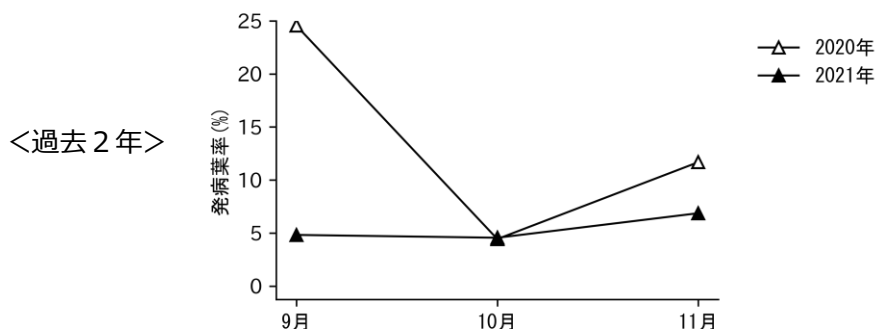
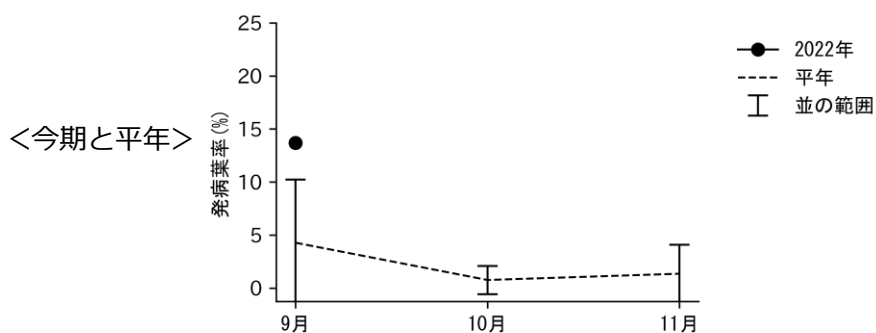


作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	① 黒斑・褐斑病		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	やや多	
予 報	9 月からの増減傾向	↓	
	10 月の発生量（平年比）	やや多	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↓）	

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率75.0%（平年：37.0%）

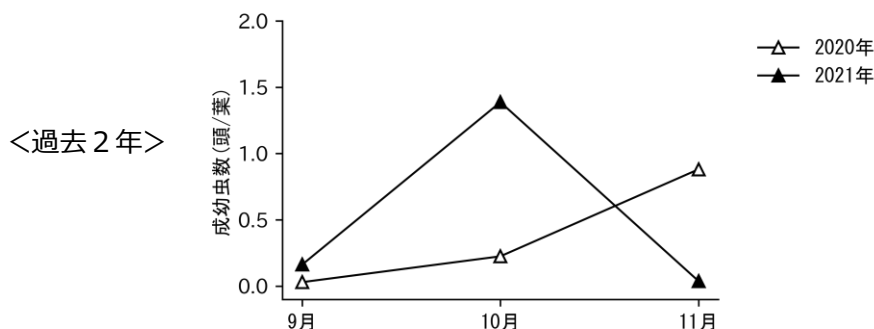
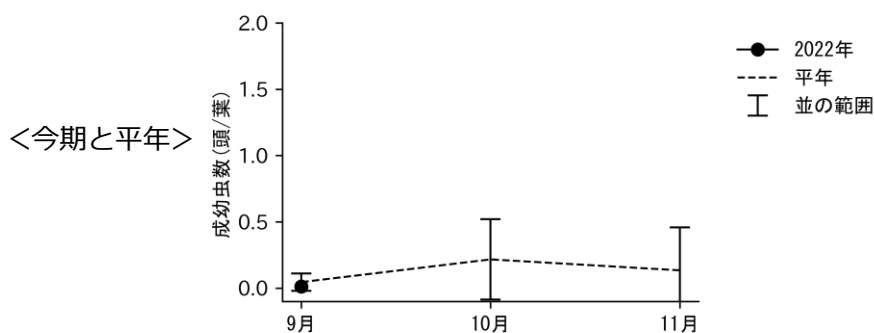
防除のポイント

- ・発病葉は速やかに除去する。
- ・肥料切れや窒素質肥料の過用は発生が多いため、施肥管理を適正に行う。
- ・ほ場の排水・通風を良くする。
- ・水滴の跳ね上がりを防止するため、敷草を行う。
- ・発生が多い場合は薬剤散布により防除を徹底する。

作物	小ギク (年末出荷用)	地域	沖縄群島
病害虫名	② アザミウマ類		 <p>クログハナアザミウマ</p>
調査結果	9 月の発生量 (平年比)	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


成幼虫数の推移



・発生ほ場率62.5% (平年 : 22.0%)

防除のポイント

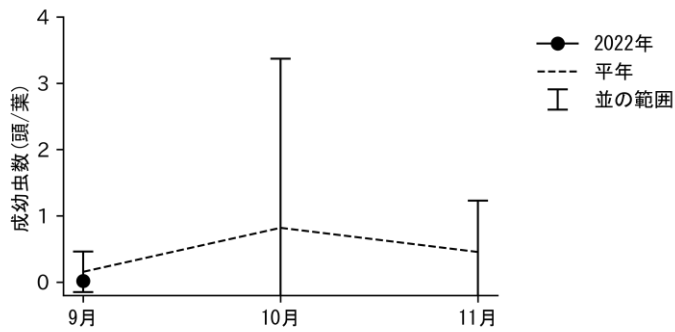
- ・ 苗の段階から葉にアザミウマがついていることが多いので、苗床での防除を徹底する。
- ・ 定植時に粒剤を施用する。
- ・ 採穂後の親株ほ場はアザミウマの発生源となるため、薬剤散布後、すみやかに片付ける。
- ・ 成虫は新葉や上位葉に、幼虫は上～中位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・ 同一ほ場内にあるキクは、異なる品種、異なる生長段階であっても、同時に防除を行う。
- ・ 地際部から新しく出てきた脇芽は、アザミウマが増殖しやすいので、早めに除去する。

作物	小ギク（年末出荷用）	地域	沖縄群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
調査結果	9 月の発生量（平年比）	並	
予報	9 月からの増減傾向	↗	
	10 月の発生量（平年比）	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移（↗）	

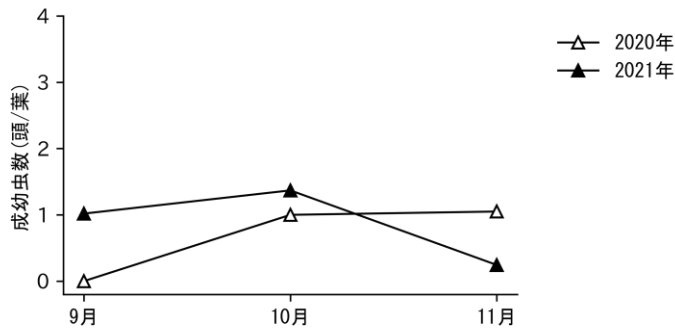
調査結果

成幼虫数の推移

<今期と平年>



<過去2年>



・発生ほ場率37.5%（平年：26.0%）

防除のポイント

- ・多発すると新葉の萎縮や芯止まりにより生長が阻害されるため、葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・発生源となるほ場内外の雑草を除去する。



被害の様子